



すっかり秋らしくなりましたが、皆さまお変わりありませんか？南阿蘇地方の稲刈りはほとんど終わりました。収穫の喜びを得た反面、黄金色に輝いていた稲穂がなくなるとちょっと寂しい気もします。今月もまたいろんなことがありました。めずらしい出来事からご紹介しますね。



ここ数年「農業体験」というのが流行っているようで、小中学生の修学旅行生を受け入れて欲しいという要望が毎年のように来ます。今年は三男が生まれたばかりなので、全部お断りしていたのですが、家がまん前で親戚でもある中学一年の少年から「耕太兄のところでやりたい」と頭を下げられたら、断るわけにはいきません。収穫時期のいちばん忙しいときに3日間も！しかも無報酬で！地元の子供たちのためとはいえ、なかなかどうしてタイヘンなのです。



さて何をしようかと思案していたら、台風の影響で1日目も2日目も大雨。外の作業ができないので、まずは牛小屋へ。村の子供たちといえども、家で牛を飼っていない限りなかなか接する機会がないため、喜んで牛の世話をしていたようです。昼ごはんの後は社会見学。1日目は籾を乾燥、調整、保管するライスセンター、2日目は牛の競り市が開かれる畜産協同組合・・・と地元に住んでいても、なかなか入らないところへと連れて行きました。



ようやく晴れた3日目は、牧草運びや稲刈り作業に大忙し。ぬかるんでいて、機械では刈り取りにくかったところを、農業体験のためにとっておいたのです。少しは農業らしいことができたようで、良かった、良かった。一緒について行ったわが息子たちが泥んこまみれになったのは御愛嬌。

数日後、さっそくお手紙が届きました。その中に「私も農業がしたくなりました」と書いてあったのを読んで、ああ受け入れてよかった、と耕太。それにしても、一番楽しんでいたのは、普段忙しいお父さんに連れまわしてもらえたわが子たちかも。自称「作業着」を着て、「お仕事をしたんだよ」と自慢げに話してくれました。

次は「田んぼコンサート」のお話。今年は南阿蘇ランドアートクラブというサークルで、田んぼを舞台とした四季のイベントを企画しているのですが、秋は何といても名月。音楽を聞きながら田んぼで月をみよう！ということになったわけです。月に合う楽器、ということから、メンバーのついでで笙の演奏家に来てもらえることになりました。奈良時代に中国から伝わったと言われる「笙(しょう)」。神社などで音色を聞いたことはあっても、本物を見たのは初めてでした。コンサートは二部構成で、前半は子供たちが一緒に楽しめるようなノ

りのいいナンバーで。ジャズドラマーの太鼓がリズムカルに場を盛り上げます。そして参加者持ち寄りの夕食をつまんでから、後半は月あかりと竹あかりをたよりに棚田へ移動。耕太がメンバーと半日かかりで設置したステージの前にはかがり火がたかれ、バックには掛け干しの稲と十三夜の月。平安時代のお月見で演奏したという曲が流れると、幻想的な雰囲気がいまに漂い、見慣れている田んぼがまったく違う空間に変身します。子供たちもその雰囲気に呑み込まれたようにじーっと聞き入っていました。音楽って不思議。そして月明かりって素敵。子供たちまで含めると50人近くも集まった大イベントとなりました。笙の演奏者さんには生後7ヶ月の息子さんがいて、第二部が始まる頃には眠くて大泣き。そこでお母さんの代わりに私のおっぱいを飲ませると、ほんの一瞬とまどってから吸い付きはじめ、笙の音色を子守唄にコンサートが終わるまでスヤスヤと眠ってくれました。



さて農作業のことも。稲刈りが終わると同時に、牛のえさとなるワラを集める作業が始まります。まずはしっかり乾燥させるためによくかき混ぜるのですが、今年は雨に泣かされました。あとちょっとで乾くかと思うと雨が降る。この繰り返しです。牛さんたちが食べてくれるかちょっと心配だなあ。牧草の種も撒きました。堆肥や石灰を入れ、畑を何度もしっかりと耕し、満遍なく種をまきます。秋晴れで阿蘇五岳が一段と美しく見えます。サトイモを掘ったりタカナの種をまいたり、タマネギの苗を植える準備もをしたり…。冬が来ないうちに、まだまだやることはありますが、稲刈りがひと段落しているので、気持ちの上では前よりゆとりがあります。晴れている日はあぜ道でランチ。お腹が一杯になった子供たちは、トラクターの上でうとうと。これでは仕事になりませんので、そ〜っと降ろして

帰りました。

ところで、皆さまにお知らせがあります。おあしす米生産組合のメンバーのところに、仕事を終えて立派に成長しているアイガモがいます。解体して生肉にすると、1羽あたり1,300~1,400円ほどになるということですが「ぜひ食べてみたい!」という方がいらっしやいましたら、ご連絡下さい。鴨南蛮をおかずにおあしす米を食べると言うのもなかなかいいかもしれません。ミニトマトやぶどうをいっぱい食べて育ったハーブ鴨?です。



それでは、季節の変わり目に風邪など召されませんよう、ご注意下さい。